

## 原稿作成の手引き

- (1) 原稿は必ず Microsoft Word (.doc, .docx, または.rtf 形式) で作成し, デジタルデータで入稿すること. 本研究会が原稿フォーマットとして用意したファイルを書き換えることにより, 原稿を作成することが推奨される.
- (2) 原稿のレイアウト設定は以下の通り: 原稿サイズは A4 (幅 210 mm×長さ 297 mm), 印刷の向きは縦, 文字数は 40, 行数は 36, 余白は上下左右とも 30 mm, 行間隔は 20 ポイント固定で段落前後にスペースは設けない. フォントは MS 明朝 (日本語) および Times New Roman (半角英数字). 全角の英数字は使用しないこと. フォント色は黒のみ. ローマ字の表記はすべてヘボン式で書き, アクセント記号や長音記号は使用しないこと (固有名詞を除く). ヘッダーおよびフッター部分にはページ番号を除き何も記入しないか, 原稿フォーマットを使用する場合には手を加えないこと (編集委員会で記入する). フォントサイズは指定がない限り 11 ポイント.
- (3) 原稿 1 ページ目には, 次の項目について順に記載すること: 原稿の種別, 日本語タイトル, 英語タイトル, 日本語著者名, 英語著者名, 日本語所属および所在地, 英語所属および所在地. それぞれの間は一行空ける.

### [原稿の種別]

原著論文, 短報, 総説・解説のうち, いずれかを示すこと. 左詰めで, それぞれ [原著論文], [短報], [総説・解説] のように書く.

### [タイトル]

中央揃えにする. 原稿 1 ページ目の 1 行目に日本語タイトル (12 ポイント, 太字). 複数行にわたっても良いが, 内容を反映した短いタイトルにすることが推奨される.

改行して, 英語タイトル (10.5 ポイント, 太字). 英語タイトルは各単語の頭文字を大文字にする. ただし, 文頭を除き, 前置詞 (of や in), 接続詞 (for や and), 冠詞 (a や the) は小文字のままにする.

### [著者名]

両端揃えにする. タイトルから一行空けて, 著者名 (日本語, 10.5 ポイント). 著者名は本名を使用し, ペンネーム等は認めない. 複数の著者がいる場合は「・」でつなぐ. 各著者には所属を示す数字を順に 1 からふり, 上付き文字の機能で各著者の右上につける (著者名との間にスペースは不要). 特定の著者に複数の所属がある場合には「,」(全角のカンマ) を使用して<sup>1, 2</sup>等とつけること.

改行して、英字の著者名（英語，10.5 ポイント）. ファーストネーム，ファミリーネームの順に書き，間は半角スペース空ける．ファミリーネームはすべて大文字にする．複数の著者がいる場合は「，」（半角のカンマと半角スペース）でつなぐ．各著者には所属を示す数字を順に 1 からふり，上付き文字の機能で各著者の右上につける（著者名との間にスペースは不要）．特定の著者に複数の所属がある場合には「，」（半角のカンマと半角スペース）を使用して<sup>1,2</sup>等とつけること．著者順や所属の番号はすべて日本語の著者名と対応させること．

[所属]

両端揃えにする．所属の先頭に著者と対応する番号を上付き文字で付け，所属の名称と所在地を書く（10.5 ポイント）．名称と所在地の間には「，」（全角カンマ）を挿入し，所在地の最後には「.」（全角のピリオド）をつける．複数の所属を書く場合には，先の所在地に続いて同様に書く（スペースを空けず，改行もしない）．

改行して，英語の所属を書く．名称と所在地の間には「，」（半角カンマと半角スペース）を挿入し，所在地の最後には「.」（半角のピリオド）をつける．複数の所属を書く場合には，先の所在地に続いて同様に書くが，半角スペースを空けること．

[連絡先のメールアドレス]

英語の所属の後に改行して，「連絡先（E-mail）：」のあとにメールアドレスを書く（10.5 ポイント）．メールアドレスは各記事の内容に対する問い合わせに関して，対応できるものを書くこと．共著の場合は，著者 1 名以上のメールアドレスを書き，メールアドレスの後に括弧書きで氏名を書く（単著の場合には不要）．複数の著者のメールアドレスを書く場合には，それぞれ「，」（全角のカンマ）で繋ぎ，改行せずに並べること．

- (4) タイトル，著者名，所属の後に一行空けてから，本文を続ける．抄録はつけない．原則として，章立てによる構成にすること（短報を除く）．各章題は太文字にして，中央揃えにする．章題が 2 文字の場合には，「○ ○」のように文字の間に全角スペースを挿入する（例えば，“結果”は“結 果”）．章題から改行し，左詰めの両端揃えで文章を書く．文章は 1 行目のインデントを全角 1 文字分の下げに設定し，段落構成にする．句読点は「，」（全角カンマ）および「.」（全角ピリオド）を使用する．括弧等もすべて全角とする．
- (5) すべての数値は半角で記入し，三桁ごとに半角のカンマを挿入すること．なお，範囲を表す際には，「～」（全角）または「-」（エンダッシュ）を用いる．ただし，本文中において「～」と「-」は併用せず，どちらかに統一すること．

例	備考
100	すべて半角.
1,000,000	すべて半角. 三桁ごとにカンマ (半角) を挿入.
100~1,000	範囲を表す場合は「~」または「-」(エンダッシュ) を使用し (どちらかに統一), それらの前後はスペースを空けない.

- (6) 単位の表記は国際単位系 (SI) に従うこと. 数値と単位の間は半角スペースを空ける.

例	備考
1 km	半角で書き, kmなどの記号は使用しない.
10 m <sup>2</sup>	累乗は Word の上付き文字機能を使用し, m <sup>2</sup> などの記号は使用しない.
20 °C	温度の単位は°C と書き, °Cなどの記号は使用しない.

- (7) 特定の道具・機器等は, 商品名, 型番, メーカー, そのメーカーの所在地も併記することが望ましい.

例	備考
pH/EC/TDS/°C テスター (HI 98129N, Hanna Instruments, Inc., Woonsocket, RI, USA)	型番, メーカー, 所在地は「,」(全角カンマ) で区切る.
水生昆虫稚魚すくい網 (HOGA, 京都市)	型番が不明な場合は省略しても良い. 国内のメーカーの場合は, 国名は省略.

- (8) 採集地や観察地の情報公開については, 各生物の保全状況を鑑みて, 十分に配慮する. 環境省や福島県等のレッドリストにおける高カテゴリーの希少種 (絶滅危惧 I 類等) や, 国内希少野生動植物に指定されている場合には, 原稿提出時に編集委員に相談したうえで, 詳細な生息地/生育地の非掲載が認められる (掲載は市町村までにする等). また, 編集委員会が詳細な生息地/生育地の非掲載を要請する場合がある. 非掲載とする場合には, その旨を理由とともに本文中に記載する.
- (9) 初出の生物名は標準和名 (存在する場合) と学名を併記する. 和名と学名の間は半角スペースを空ける. 二回目以降は和名のみで良い. 和名がない場合は, 学名のみで良い. 学名は属名と種小名 (および亜種名・変種名) を斜体にすること. その学名が初出である際は, 命名者も表記すること. 国際藻類・菌類・植物命名規約で定義された

学名を除いて、発表年も表記することが望ましい。二回目以降の学名は、属名や下位分類があるなら種小名を省略形にしても良いが、異なる属や種の生物同士が同じ省略形になってはいけない。学名は最新の分類体系に従ったものとし、信頼できる最新のリスト、図鑑、論文等を参考に表記する。例えば、GBIF（地球規模生物多様性情報機構）のデータベースにアクセプトされているものや、『植物和名－学名インデックス YList』（米倉浩司・梶田 忠 2003-）といった信頼できるデータベースに掲載されているものを使用する。また、種名が確定できない場合は、「〇〇属の一種」のように書く（必ず漢数字で書くこと）。

表記例：

ネモトシクナゲ *Rhododendron brachycarpum* D.Don ex G.Don f. *nemotoanum* (Makino)

Murata

ソメイヨシノ *Cerasus x yedoensis* (Matsum.) Masam. et S.Suzuki 'Somei-yoshino'

ゲンゴロウ *Cybister chinensis* Motschulsky, 1854

オオムラサキ *Sasakia charonda charonda* (Hewitson, 1862)

トゲマダラカゲロウ属の一種 *Drunella* sp.

- (10) 本文中の引用については、次の例を参考にすること。

日本語の文献を引用する場合：

例	備考
大平（2025）では...	括弧は全角.
大平（2025, 2026）では...	同一著者による異なる発表年の文献を同時に引用する場合. 括弧は全角, カンマは全角, 発表年順に並べる.
大平（2025a, b）では...	同一著者による同年発表の文献を同時に引用する場合. 括弧は全角, カンマは全角, a から順に並べる.
大平・福島（2025）では...	著者がふたりの場合. 括弧は全角.
大平ら（2025）では...	著者が三人以上の場合. 括弧は全角.
...とされている（大平, 2025）.	括弧は全角. 著者名のあと, 全角カンマ, 発表年.
...とされている（大平・福島, 2025）.	著者がふたりの場合. 括弧は全角. 著者名のあと, 全角カンマ, 発表年.
...とされている（大平ら, 2025）.	著者が三人以上の場合. 括弧は全角. 著者名のあと, 全角カンマ, 発表年.

...とされている (大平ら, 2018; 福島, 2025).	複数の文献を同時に引用する場合. 括弧は全角. 著者名のあと, 全角カンマ, 発表年. セミコロンは全角, 発表年順に並べる.
----------------------------------	---

英語 (または日本語以外の言語) の文献を引用する場合 :

例	備考
Ohira (2025) では...	括弧は全角.
Ohira (2025, 2026) では...	同一著者による異なる発表年の文献を同時に引用する場合. 括弧は全角, カンマは全角, 発表年順に並べる.
Ohira (2025a, b) では...	同一著者による同年発表の文献を同時に引用する場合. 括弧は全角, カンマは全角, a から順に並べる.
Ohira & Fukushima (2025) では...	著者がふたりの場合. 括弧は全角. 著者を繋ぐ& (半角) の前後はそれぞれ半角スペース空ける.
Ohira <i>et al.</i> (2025) では...	著者が三人以上の場合. 括弧は全角. <i>et al.</i> は斜体.
...とされている (Ohira, 2025).	括弧は全角. 著者名のあと, 全角カンマ, 発表年.
...とされている (Ohira & Fukushima, 2025).	著者がふたりの場合. 括弧は全角. 著者を繋ぐ& (半角) の前後はそれぞれ半角スペース空ける. 著者名のあと, 全角カンマ, 発表年.
...とされている (Ohira <i>et al.</i> , 2025).	著者が三人以上の場合. 括弧は全角. 著者名のあと, 全角カンマ, 発表年. <i>et al.</i> は斜体.
...とされている (Ohira <i>et al.</i> , 2018 ; 福島, 2025).	複数の文献を同時に引用する場合. 括弧は全角. 著者名のあと, 全角カンマ, 発表年. セミコロンは全角. 発表年順に並べる.

- (11) 謝辞は必要に応じて章立てする. 当該の記事に関する調査や研究を行うにあたって, 便宜を図ってくれた恩人や組織に対する謝辞を述べるほか, 研究資金を得ている場合や採取許可等を受けている場合には, 課題番号や許可番号等を伴ってここに表記すること.

- (12) 引用文献のリストは、本文と同様に引用文献の章を立て、改行してから書き下す。章タイトルは「引用文献」とする。リストは、1行目のインデントを設定せず、ぶら下げインデントで全角2文字分下げる。アルファベット順、発表年順に書き下す。同一著者による同発表年の文献がある場合は、出版された順に並べることとし、発表年のあとに「a」や「b」を加えて区別する。各生物の記載論文については、学名の表記のみに使用されている場合は引用文献リストに含めない。また、オンライン上の記事やデータベース等を引用する場合は、大学や公的機関の記事や、広く引用されているデータベース等の信頼できるものに限る（Wikipedia や個人ウェブブログといったものは認めない）。本文中で引用した文献のみをリストし、参考文献等は表記しない。
- (13) 引用文献の表記方法は、基本的に APA 準拠とする。雑誌が英語または日本語以外の媒体による場合は、雑誌名を斜体にする。学名（属名や種小名等）は斜体にする。ページの範囲は「-」（エンダッシュ）を使用して表す。日本語の文献の場合はカンマやピリオド、括弧を全すべて角にし、英語等の日本語以外の文献の場合はすべて半角にする。ただし、言語によらず、巻号部分の括弧は半角とする。

[日本語の雑誌を引用する場合]

- 大平 創・塘 忠顕. 2018. 裏磐梯・猪苗代地域の河川におけるカゲロウ・カワゲラ・トビケラの記録. 福島生物 61 : 16–27.
- 大平 創. 2025a. 十日町市松之山におけるゲンゴロウ類の追加記録. 「森の学校」キョロロ研究報告 6 : rk202502.
- 大平 創. 2025b. ヤチアミメトビケラの幼虫はクロサンショウウオの卵を捕食するか? 「森の学校」キョロロ研究報告 6 : rk202503.
- 首藤光太郎・藤田 玲・菊地 賢・中川博之・横山（木村）耕. 2024. 絶滅危惧種ヤツガタケムグラ（アカネ科）は北海道に広く分布する. 植物研究雑誌 99(4):260–264.
- 矢野興一・首藤光太郎. 2025. シロミノハリイ（カヤツリグサ科）の新染色体数. 莎草研究 (27) : 11–13.

[日本語以外の雑誌を引用する場合]

- Ohira, H., Kaneko, S., Faulks, L., Tsutsumi, T. 2018. Unexpected species diversity within Japanese *Mundochthonius* pseudoscorpions (Pseudoscorpiones: Chthoniidae) and the necessity for improved species diagnosis revealed by molecular and morphological examination. *Invertebrate Systematics* 32: 259–277.
- Ueno, S., Hasegawa, Y., Kato, S., Mori, H., Tsukada, H., Ohira, H., Kaneko, S. 2023. Rapid

survey of *de novo* mutations in naturally growing tree species following the March 2011 disaster in Fukushima: the effect of low-dose-rate radiation. *Environment International* 174: 107893.

Larridon, I., Tanaka, N., Liang, Y., Phillips, S.M., Barfod, A.S., Cho S.-H., Gale, S.W., Jobson, R.W., Kim, Y.-D., Li, J., Muasya, A.M., Parnell, J.A.N., Prajaksood, A., Shutoh, K., Souladeth, P., Tagane, S., Tanaka, N., Yano, O., Mesterházy, A., Newman, M.F., Ito, Y. 2019. First molecular phylogenetic insights into the evolution of *Eriocaulon* (Eriocaulaceae, Poales). *Journal of Plant Research* 132(5): 589–600.

[書籍を引用する場合]

塘 忠頭 (編著). 2016. 裏磐梯・猪苗代地域の環境学. 福島民報社, 福島.  
日本昆虫目録編集委員会 (編). 2022. 日本昆虫目録 第6巻 鞘翅目 (第1部). 権歌書房, 福岡.  
中島 淳, 林 成多, 石田和男, 北野忠, 吉富博之. 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 文一総合出版, 東京.  
Weygoldt, P. 1969. The Biology of Pseudoscorpions. Harvard University Press, Cambridge, USA.

[書籍の一部を引用する場合]

塘 忠頭, 増渕翔太, 大平 創. 2016. 裏磐梯地域に生息する底生動物. 塘 忠頭 (編著): 裏磐梯・猪苗代地域の環境学, pp. 151–161. 福島民報社, 福島.  
Hilsenhoff, W. L. 1991. Diversity and classification of insects and collembola. *In* Thorp, J.H., Covich, A.P. (eds.): Ecology and Classification of North American Freshwater Invertebrates, pp. 587–657. Academic Press, California, USA.

[ウェブサイト引用する場合]

環境省. 2020. 環境省レッドリスト 2020. <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf> (2025年7月17日確認).  
米倉浩司・梶田 忠. 2003-. BG Plants 和名ー学名インデックス (YList). <http://ylist.info> (2025年7月17日確認).  
World Pseudoscorpiones Catalog. 2022. World Pseudoscorpiones Catalog. Natural History Museum Bern, <http://wac.nmbe.ch> (2025年7月17日確認).

- (14) 図は jpeg, png, または tif 形式とし, 原稿と同様のサイズやフォント等のレイアウトのファイルに画像を挿入または貼り付け, 別ファイルとして入稿すること. 印刷の向きを横にしても良い. 写真を含む場合は鮮明なものを使用する. カラーの場合の解像度

は 300 ppi 以上, グレースケールの場合の解像度は 600 ppi 以上とする (モノクロは不可). ただし, 各図のファイルサイズは 100 MB を超えてはならない. スケールが必要な場合には, 図中にスケールを入れ, 拡大率で示すことは行わない. 図の下には必ず図タイトルと説明を示し, 図タイトルの後に改行して説明を書く (すべて左詰め, 太字). 図が複数ある場合は 1 から順に番号を振り, 「図 1. 図タイトル.」のように書く (番号のあとに全角ピリオド, 図タイトルの最後に全角ピリオド). 各図はページごとに完結させ (図タイトルおよび説明も含む), 図が複数ある場合はそれぞれページを変える.

- (15) 表は Microsoft Word の表作成機能を使い, 原稿と同様のサイズやフォント等のレイアウトのファイルに作成する. 原稿とは別ファイルとして入稿すること. 原稿サイズやフォント等のレイアウトは上記 (2) と同様とする. 印刷の向きを横にしても良い. 表タイトルと注釈の文字サイズは 10.5 ポイントとするが, 可読性が担保される場合に限り, 表中の文字や数字はより小さなポイント数での表記も認める (極端に小さな文字サイズや間隔を詰めすぎないこと). 表の上に必ず表タイトルを示す (左詰め, 太字). 表が複数ある場合は 1 から順に番号を振り, 「表 1. 表タイトル.」のように書く (番号のあとに全角ピリオド, 表タイトルの最後に全角ピリオド). 表に注釈がある場合は, 表の下に書く. 表の罫線は横と縦のみとし (斜めは使わない), すべて一重の実線で描き, 太さは 0.5 ポイントとする. 表が複数のページにまたがる場合はそのまま続け, 2 ページ目以降の表タイトルは「表 1. (続き)」のように示し, 注釈は最後のページにだけ示す. 表が複数ある場合はそれぞれページを変える.
- (16) 長大な記録を示す場合は, 表形式ではなく, リスト形式での掲載も可能. 図表と同様に, 原稿とは別ファイルで入稿すること (原稿と同様のレイアウトとする). ただし, リストの長さに応じて, 編集委員会が行間や文字サイズ等を調整することがある.

2026 年 3 月 7 日作成